

○委員長（菊川敬人）

再開します。

午後4時50分

○委員長（菊川敬人）

一般会計予算のうち、これまでの質疑で漏れたものの項目について質疑を行います。

お諮りします。本日の委員会は延長が予測されますので、議事の都合上、本日の会議を延長することに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」という者多数）

○委員長（菊川敬人）

異議なしと認め、本日の会議を延長いたします。

質疑については、簡潔にお願いいたします。それでは、質疑をどうぞ。

湯川委員。

○3番（湯川洋治）

人件費について質問したいと思います。予算書の186ページです。現在支給されている地域手当について、ご質問します。現行の手当は5%と記載されておるのですが、過去に3%に下がった時代もあるし10%のときもあったのですが、5年間の人口増加率が県内市町村で最高を上げているということで、町長も「日本一元気なまち」ということで職員の皆さんも元気になっていただきたいと思いますので、提案ですけれども、これを5%を7%に検討していただきたいと思います。いかがでしょうか。

○委員長（菊川敬人）

総務課長。

○総務課長（山口哲也）

それでは、ただいまの湯川委員のご質問にお答えいたします。

地域手当の考え方につきまして簡単にご説明を申し上げますと、従来は職員数が他団体と比較しても少ないということから、少数精鋭という考え方を一つ柱に持っておりました。その中では、小田原市を参考基準ということで、議会の皆様をはじめ町民の皆様にご理解いただいていたところでございます。来年度、小田原市は地域手当を変更する予定があるという情報を聞いているものの、一方で第三次職員定員適正化計画に基づきまして職員数を増やしているということも実態でございます。少数精鋭から適正な職員数の確保というようにシフトを若干変更しているといったこともございます。ただいまの湯川委員のご提案、大変、職員にとってありがたいお話ではございますが、考え方といたしましては、そういった方向性を今は持っているということで5%を維持しているという考えでございます。

以上でございます。

○委員長（菊川敬人）

湯川委員。

○3番（湯川洋治）

いろいろ私も調べさせていただいて、過去にやはり小田原市に附随するというふうな文言が出てきましたのは知っているのですが、今、町が一番、人口増加対策をやって結果が出ているときで、やはり、こういうものはやるべきだと。下げるときは下げる、上げるときは上げると、これが私は今だと思うのですが、その辺を今後検討していただければと思います。

以上です。

○委員長（菊川敬人）

総務課長。

○総務課長（山口哲也）

大変、本当に職員にとってありがたいお言葉だと思います。一方で、公務員の給与につきましては均衡の原則と、近隣とも均衡を図っていきなさいというルールも一つございます。この中で、上郡では他の町が3%、一部4%に変更する予定があるという町があるとも聞いておりますが、そういった中で開成町は現行維持という考え方を持って平成28年度当初予算は組んでいるといった状況でございます。

○委員長（菊川敬人）

ほかに、どうぞ。

下山委員。

○7番（下山千津子）

下山でございます。

副町長の予算の主な事業の概要としてのご説明の中に、6ページで商工費といたしまして5番の「あしがり郷瀬戸屋敷維持管理事業費」として、「町の文化財として指定されている『あしがり郷瀬戸屋敷』を適切に維持管理し、観光振興や地域学習活動拠点として活用していきます」という文言がございますが、8番の方にも「北部地域を活性化するために町外からの交流人口増加を図ることを目的として、あしがり郷瀬戸屋敷を中心とした交流観光拠点の整備を進めます」とご説明がありました。

そこでお伺いしたいのですが、町の職員のお話では、まだ瀬戸屋敷の方に行ったことがないという人もおられるようですので、新採用の研修会とか、そういう部分で、また部課長会議などの会議に瀬戸屋敷を活用されて、北部地域の活性化に向けた、そういう施策をされてはどうかというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○委員長（菊川敬人）

21号議案から外れていますけれども、よろしいですか。

では、総務課長。

○総務課長（山口哲也）

職員の研修ということも含めまして、私の方からお答えをさせていただきます。

ただいま下山委員のご提案のとおり、瀬戸屋敷、新採用職員にぜひということですが、実は、新採用職員は採用時に町内の主要な施設というところで視察、それから見学を行っておりまして、この中に瀬戸屋敷も含まれております。一方で、町の大切な文化財でありまして、町の歴史を知り文化に触れるといった機会は大変重要

なことだと思しますので、今後、そういった瀬戸屋敷での研修というのも平成28年度以降の研修計画の中で参考にさせていただけたらと思います。

以上でございます。

○委員長（菊川敬人）

下山委員、21号議案の審議を行っていますので、副町長の説明は21号議案から外れておりますので、21号議案の中でお願いいたします。予算書の中からお願いします。

下山委員。

○7番（下山千津子）

それでは、予算書の121ページの「あしがり郷瀬戸屋敷維持管理事業費」の中でご質問をいたします。今、課長からご答弁をいただきましたが、視察とか、そういう新人の研修で瀬戸屋敷を活用されているということをお聞きしましたが、自治会長連絡協議会の会議が定期的に行われているわけですが、北部地域の活性化のためには、町内交流人口を増やすということの一環の中に、町民が主役ということで町長が打ち出されております町内の皆様に北部地域を知っていただく、そういう意味合いでは、自治会長連絡協議会をこの瀬戸屋敷で実施されるとか、あとは公共の施設の福祉会館で実施されるとか。いつも同じ役場とか町民センターでなく、新たな取り組みといたしまして目先を変えてやられるということも大事ではないかなというふうに思いますが。岡野の特に老人の憩いの家とか、そういうところを南部の自治会長さんに知っていただくとか、自分の自治会館とは違った趣の中で皆さんがやっているとか、そういう交流人口を図るという点でのお考えはございませんでしょうか、お伺いいたします。

○委員長（菊川敬人）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（遠藤直紀）

議員の質問にお答えいたします。

自治会長連絡協議会につきましては、年8回行っております。場所は、役場の全協室の方をお借りしてやっているというところがございます。ここでやるというところは、集まりやすいというような部分と、あと職員のほうも説明員としているということで、それなりの人数と部分と、利便性と言うとあれですけども、そういうようなところで行っております。

ほかの場所での開催ということですが、このあたりも自治会の連絡協議会の会長さんの意向であったり、自治会の委員さん、自治会長さんのお考えということも確認をしたいというふうに思いますので、まずはお話を、このようなお話があったということはさせていただきたいというふうに思います。

○委員長（菊川敬人）

下山委員。

○7番（下山千津子）

ぜひ、前向きに取り組んでいただけたらありがたいなと思います。というのも、北部地域の住民の方たちが、ぜひ瀬戸屋敷を使ってほしい、もっともっと住民に北部を知っていただきたいというような要望をお聞きしましたのでお伺いいたしました。ぜひ、よろしくお願ひしたいと思います。

○委員長（菊川敬人）

前田委員。

○4番（前田せつよ）

2点、お伺いいたします。まず1点目は、先日質問させていただいた本書89ページ、「シルバー人材センターの支援事業費」にふれて答弁させていただいた中で、本年度のシルバー人材の会員数の件で私の認識と町側の数がちょっと違っていた、その件について、どうなっているのかということ。私の方は、昨年度の説明資料には、平成26年4月1日、220名ということで説明書がありましたので、前回、それを用いてご質問した経緯がありますので、数字的なものを、まず1点、教えていただきたい点と。

もう一点は、説明書32、33、重点002、「保育所充実事業費」。先ほど来も同僚の委員が民間保育所開設に向けた建設工事費について議論が交わされたわけですが、その中での町の答弁といいますか、町の姿勢として、県の認可云々というような言葉にウエートが置いてあったような気がしまして、町長の当初の予算提案趣旨説明にもあるように、保育所開設を支援するという言葉とどういうふうにリンクしていくのか、もう少し踏み込んだ形で町側のお考えを聞きたいと思います。

○委員長（菊川敬人）

福祉課長。

○福祉課長（小宮好徳）

それでは、お答えさせていただきたいと思います。

まず、1点目のシルバー人材センターの人数の件でございます。昨年度、うちの方の人数なのですけれども、大変恐縮でございますけれども人数が違ってございました。ここで訂正させていただきたいと思います。人数の方は、この前、お話ししたとおり193名が今年度180名ということで、220ですか、そこは、うちの方の数字の間違いでしたので、訂正させていただきたいと思います。どうもすみませんでした。

○委員長（菊川敬人）

町長。

○町長（府川裕一）

保育所の件で私の方からも一言、お話をさせていただきたいと思います。

南地区の区画整理が昨年、終わりました。ここに、できるだけ早く若い世代の人たちに移り住んでもらいたいということの中で、子育て支援、子どもの教育に対して平成28年度から力を入れていきたいという中で、保育園の誘致というのはもう最大の命題でありまして、あと1年の中で待機児童が0になることを目指さなくてははいけない。人に来ていただくことを目指しておきながら、来たら預かる場所がないという

のでは元も子もないので、そういう意味も含めて、最大限、今、保育園誘致に対して民間保育所にやっていただけたところまで来ておりますので、その支援、これは金銭的だけではなく、ハードだけではなく、いろいろなソフトの面においても、県や、また、お金を借りるところの金融機関を含めて、さまざまなことはさせていただいておりますので。また、細部については課長の方から細かく。町として、そのような支援をしながら今は進めているという状況をぜひご理解をいただきたいと思いますので、細部は、また課長から話をさせていただきます。

○委員長（菊川敬人）

子ども・子育て支援室長。

○子ども・子育て支援室長（中戸川進二）

細部について、私の方からお答えさせていただきます。

先ほど来より予算計上の内容についてはご説明をさせていただいているところでございますが、それ以外にも積極的に子育て世代の流入人口を増やすという形の中で進めていくということが非常に大事なのかなというふうに思っています。そういった子どもも意気込みで、この事業を何としても成功させるのだということを進めてまいりたいと思います。

なお、今回の予算計上に当たりましては、非常に全体としても今後、大型事業が控えている中で、町負担額が発生するという中で建設費の補助、それ以外にも後年度負担として、基準認定園の保育所を運営いたしますと、委託として大体、年間8,000万円ぐらいの費用が生じるというのがこれまでの実績でございます。ただ、そのうち国、県の負担が入りますけれども、町といたしましては、そういった状況を踏まえながらもきちんと子育て世代を流入するという意気込みで進めてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長（菊川敬人）

前田委員。

○4番（前田せつよ）

様々な角度から、検討に検討を重ねているというようなご答弁だったと思います。理解をいたしました。

○委員長（菊川敬人）

ほかにごございますか。よろしいですか。

（「なし」という者多数）

○委員長（菊川敬人）

では、以上で議案第21号 平成28年度開成町一般会計予算についての質疑を終了します。

本日は、ここまでとします。明日15日は午前9時から、国民健康保険特別会計予算の質疑から行います。

これにて本日の予算特別委員会は散会いたします。お疲れさまでした。

午後5時5分 散会

